

JMICOにおける 質保証・承認審査の基本方針

ーマイクロクレデンシャルの品質と信頼性をどのように確認するかー

大庭良介

JMICO理事、質保証・承認委員会 委員長
筑波大学 教育推進部 教授

マイクロクレデンシャルを受け取った際の信頼の4層

第4層



個別マイクロクレデンシャルの品質

学習成果、評価、学習量、質保証等が所定の基準を満たしている

JMICRO審査の中心

第3層



発行機関としての適格性

MCを適切に設計・提供・評価・授与する能力と質保証体制を確認

審査上の前提として確認

第2層



発行機関の真正性

表示された発行機関が実在し、実際の発行主体であることを確認

第1層



技術的真正性・受領者への帰属

改ざんされておらず、当該学習者に対して発行されたことを確認

JMICRO質保証・承認審査の範囲

中心

第4層

個別MCの教育的・制度的品質

前提

第3層

発行機関としての適格性

第1・第2層は、主としてデジタル証明・レジストリ・発行機関確認に関わる

第4層：個別マイクロクレデンシャルの質保証

質保証・承認委員会は、標準化委員会が定める「マイクロクレデンシャルのフレームワーク」に基づき、個別MCの品質を審査する



審査基準を定める

標準化委員会

「マイクロクレデンシャルのフレームワーク」において、次の事項を定めます。

- MCの定義と成立条件
- MCとして認められるもの・認められないもの
- MCを発行できる機関
- 必須記述子・選択記述子
- 各記述子の定義と記載条件
- 学習量に関する条件
- 内部質保証に関する条件

共通の
審査基準



適合性を審査する

質保証・承認委員会

フレームワークに照らし、申請された個別MCについて次の7項目を中心に確認します。

- 1 学修成果が明確に定義されているか
- 2 評価方法と評価基準が学修成果に対応しているか
- 3 明確な基準に基づいて学修成果を評価し、授与しているか
- 4 学習量が総学習時間として明示され、所定の範囲で設定されているか
- 5 レベルを記載する場合、その定義と設定根拠が示されているか
- 6 当該MCに対する内部質保証が実施され、継続的改善につながっているか
- 7 必須記述子が、透明かつ比較可能な形で記載されているか



根拠資料の確認

MC内容記載シート／シラバス／評価方法・評価基準／修了要件
学習量の算定根拠／内部質保証規程・自己点検資料／質保証に関する公表情報

標準化委員会がフレームワークとして共通基準を定め、質保証・承認委員会が個別MCへの適合性とその根拠を審査する

第3層 申請機関に応じた確認方法

発行機関としての適格性



認証評価・第三者評価を受けた機関

- | | | |
|---|-----------|-----------------------------|
| 1 | 基本的な考え方 | 機関としての基礎的適格性を既存の外部質保証によって確認 |
| 2 | 申請書 | 認定機関向け申請書 |
| 3 | 内部質保証 | 内部質保証規程の有無を確認 |
| 4 | 当該MCの位置付け | 自己点検・内部質保証の対象かを確認 |
| 5 | 教育提供体制 | 原則として確認を簡略化 |
| 6 | 個別MCの品質 | 共通基準で審査 |



それ以外の機関・組織

- | | | |
|---|-----------|------------------------|
| 1 | 基本的な考え方 | JMICROが教育提供体制を含めて詳しく確認 |
| 2 | 申請書 | 非認定機関向け申請書 |
| 3 | 内部質保証 | 体制、規程、責任部署、改善方法を確認 |
| 4 | 当該MCの位置付け | 自己点検と継続的改善の仕組みを確認 |
| 5 | 教育提供体制 | シラバス、教材、講師、評価、運営体制等を確認 |
| 6 | 個別MCの品質 | 共通基準で審査 |

申請経路によって異なるのは、第3層の確認の詳細
第4層の個別MCの品質は、いずれの申請機関についても共通基準で審査する



認証評価を受けていないことだけを理由に不承認とするものではない



申請機関そのものを認証するのではなく、申請されたMCを審査する

JMICROの承認が示すもの

JMICROの承認は、申請されたMCについて、次の事項を確認したことを示す。

承認により確認する5事項

-  1 JMICROのMCフレームワークに適合している
-  2 標準化委員会が定める記述項目、定義、記載標準に適合している
-  3 学習成果、評価、学習量、内部質保証等が所定の基準を満たしている
-  4 発行機関が当該MCを適切に提供・評価・発行できる
-  5 申請区分に応じた質保証体制の確認を終えている

承認の範囲



承認は、教育内容の順位付けや優劣の評価ではない



承認されたMCを単位認定、採用、昇進等に利用するかは、受入機関が目的との関連性に基づいて判断する

今後の検討



スキルの市場適合性は、基本審査とは分け、将来的なオプション審査として扱う

JMICROは、個別MCの教育的・制度的品質を審査し、社会で信頼して利用するための基盤を整える。

パブリックコメントへのご協力に感謝申し上げます

マイクロレデンシャル質保証・承認 (Recognition) 審査制度案



JMICROでは、2026年7月、審査制度案について関係者の皆様から広くご意見を募集しました。ご多用の中、アンケートおよびパブリックコメントにご協力いただいた皆様に、心より御礼申し上げます。

ご意見



- 承認の意味・対象・保証範囲
- 個別MCの品質審査
- 機関区分と内部質保証

検討・整理



- 申請書類と審査手続
- スキル市場適合性
- 公平性・独立性・透明性

制度への反映



- 制度の目的を明確化
- 審査対象と基準を明確化
- 運用方法を具体化

いただいたご意見を真摯に受け止め、審査制度の信頼性・透明性・実効性を高めるため、制度の目的、審査対象、審査基準および運用方法の明確化を進めています。

パブリックコメントを踏まえた制度の明確化

審査の中心



JMICROの質保証・承認審査は、「マイクロクレデンシャルを受け取った際の信頼の4層」を前提とし、第4層「個別マイクロクレデンシャルの品質」を中心に確認します。

発行者としての適格性



第3層「発行者としての適格性」についても、当該MCを適切に設計・提供・評価・発行できる体制があるかを確認します。

ただし、JMICROが発行機関そのものを包括的に認証・格付けするものではありません。

JMICROの承認が示すこと



申請されたMCが、JMICROのフレームワーク、メタデータ項目の定義・記載標準および質保証基準に適合していることを示します。

JMICROの承認が示さないこと



承認は、教育内容の順位付けや優劣、資格試験への合格、採用・昇進、単位認定または特定職務への適合を保証するものではありません。



JMICROは、受入機関による利用判断そのものを行うのではなく、その判断に必要な信頼可能な情報を提供します。

個別MCの品質審査に関する回答

標準化委員会が定める「マイクロレデンシャルのフレームワーク」に基づき、個別MCの品質を確認する

2. 内容審査の範囲

教育内容の学術的な優劣や特定の学説・思想の当否ではなく、次の7項目を中心に確認します。



- 1 学修成果が明確に定義されているか
- 2 評価方法と評価基準が学修成果に対応しているか
- 3 明確な基準に基づいて学修成果を評価し、授与しているか
- 4 学習量が総学習時間として明示され、所定の範囲で設定されているか
- 5 レベルを記載する場合、その定義と設定根拠が示されているか
- 6 当該MCに対する内部質保証が実施され、継続的改善につながっているか
- 7 必須記述子が、透明かつ比較可能な形で記載されているか

形式的な記載の有無だけでなく、各項目間の整合性と、その根拠を確認します。

1. 審査対象



審査対象は、発行機関そのものや発行済みの個々の証明書ではなく、申請された教育プログラムと、当該プログラムに基づいて発行されるMCの型です。

発行済み証明書の技術的真正性および発行者の真正性は、第1層・第2層に関する別の確認事項として整理します。

3. 学修成果・学習量の必須性



学修成果は、MCが何を証明するかを示す中核的な情報であり、任意項目とはしません。

評価方法・評価基準も、学修成果との対応を確認するため、原則として必須とします。

学習量の定義、記載方法および取扱いは、フレームワークに従います。

4. 評価を中心として授与されるMC



既修得の知識・スキル・能力を、試験、実技または成果物等によって確認し、評価を中心として授与するクレデンシャルには、社会人教育上の意義があります。

このようなクレデンシャルも、フレームワーク上の「既修得の認定」として取り扱うことができます。

審査では、学修成果、評価方法、評価基準、授与要件、学習量、内部質保証について、フレームワークへの適合性を確認します。

質保証・承認委員会は、フレームワークの共通基準を個別MCに適用し、その適合性と根拠を確認する

発行機関の適格性をどのように確認するか

基本原則



認証評価等を受けた機関と、それ以外の機関では、既存の外部質保証を利用できる範囲が異なります。
このため、申請書、提出資料および確認事項の詳細を分けます。ただし、個別MCについて最終的に求める品質と信頼の水準は共通です。

認定機関からの申請



既存の認証評価・第三者評価を、機関としての基礎的な適格性を示すものとして参照します。

主な確認事項

- ・ 認証評価・第三者評価の状況
- ・ 内部質保証規程と責任体制
- ・ 当該MCが内部質保証の対象に含まれていること
- ・ 当該MCに関する点検・評価・改善の実施状況

認証評価は、発行機関としての基礎的な適格性の確認を一部代替しますが、個別MCの品質審査を代替するものではありません。



求める品質と
信頼の水準は
共通

それ以外の機関からの申請



発行機関としての適格性について、より詳細な資料に基づいて確認します。

主な確認事項

- ・ 教育提供実績と責任体制
- ・ 品質保証規程と自己点検体制
- ・ 教育プログラム、シラバスおよび教材
- ・ 講師等の選定・育成・評価体制
- ・ 苦情対応と継続的改善の仕組み
- ・ MCを適切に評価・発行する体制

内部質保証を示す資料



MCごとに独立した自己点検評価書の作成を一律に求めるものではありません。

内部質保証規程、組織図、会議記録、自己点検評価書、プログラムレビュー、評価結果、実施報告、改善記録等を組み合わせ、当該MCが実質的に内部質保証の対象となっていることを確認します。

承認制度の運用と信頼性の確保

スキル市場適合性



オプション審査

スキル市場適合性は、個別MCの基本的品質とは異なるため、基本審査から分離し、将来的なオプション審査として扱います。

資格や業界標準との関連付けだけで市場適合性を判断することはありません。また、資格試験への合格、就業可能性または特定職務への適合を保証するものではありません。



承認の単位・期間・変更



承認は、申請された教育プログラムと、それに基づいて発行されるMCの型に対して付与します。

承認期間は、新たにMCを発行できる期間を示すものであり、承認期間中に適正に発行されたMCの学習成果の証明が、期間満了によって失われることを意味しません。

学習成果、評価方法、修了要件、学習量、提供主体または質保証体制に重要な変更が生じた場合は、変更届または再審査の対象とします。



申請と公表の仕組み



- 申請書と内容記載シートの重複を整理します。
- 必要な情報が確認できる場合は、公開メタデータのURLや構造化データの利用を可能とします。
- 承認番号、承認対象、承認期間、審査区分および確認事項をレジストリで公表します。
- 発行されたMCとレジストリの承認情報を照合できる仕組みを整備します。



公平性と独立性



- 審査委員の利益相反を確認し、該当者を審査から除外します。
- 申請支援・コンサルティングの担当者と、審査・承認判断に関与する者を分離します。
- 守秘義務、申請情報の管理、不承認理由の通知、異議申立ておよび登録取消の手続を明確にします。

標準化委員会、質保証・承認委員会、レジストリ委員会が連携し、MCの記述、審査、登録・検証を一貫した仕組みとして整備します。

【開催案内】「マイクロクレデンシャルの最前線ーアカデミア×JV-Campus」| TGSW2026
世界および日本の大学におけるマイクロクレデンシャルの最新動向や活用事例を紹介するとともに、トップレベル人材の育成における可能性について議論します。

本セッションは、Tsukuba Global Science Week 2026 (TGSW2026) のプログラムとして開催します。

■開催概要

【日時】2026年9月30日（水）14:00～15:30

【形式】オンライン（Zoom）

【言語】英語

【参加費】無料（要登録）

The Forefront OF Micro-credentials

Academia × JV-Campus

マイクロクレデンシャルの最前線【アカデミア×JV-Campus】

9.30 WED **2:00 PM - 3:30 PM (JST)**  **Online**
(Streaming via Zoom)
May be extended by up to 30 min depending on progress

This session discusses and shares methods for utilizing Micro-Credentials in the development of top-level talent, drawing on case studies from Europe, Australia, and Japanese universities, with perspectives from both academia and industry.

 Language English
 Participation Registration required, Free of charge
 For Inquiries jvc-renkel@un.tsukuba.ac.jp

Speakers



Prof.
**Christopher
ZIGURAS**
The University
of Melbourne



Prof.
**Hirosugu
TAKIZAWA**
Tohoku University



Prof.
**Kikue
SAKAGUCHI**
National Institution for Academic
Degrees and Quality Enhancement
of Higher Education (NIAD-QE)



Mr.
**Keizo
YOSHIDA**
Deloitte Tohmatsu
LLC



Prof.
**Ryosuke
OHNIWA**
University of Tsukuba

